

**都市再生整備計画 事後評価**  
**大田原中央通り金燈籠地区**  
**—事後評価シート作成資料—**

目次

1. 都市再生整備計画事業とは	1
1-1 事後評価の要旨	2
2. 大田原中央通り金燈籠地区の概要	4
3. 事後評価結果について	11
3-1 指標の目標達成度（成果の評価）	11
3-2 実施過程の評価	17
3-3 効果発現要因の整理	19
4. 今後のまちづくり方策	23
4-1 まちの課題の変化	23
4-2 今後のまちづくり方策	24
4-3 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画	26

# 1. 都市再生整備計画事業とは

## (1) 制度の主旨

都市再生整備計画事業は、地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした地域主導の個性あふれるまちづくりを実施して、全国の都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図ることを目的とした制度である。

平成 16 年度にまちづくり交付金事業として創設され、平成 22 年度より、社会資本整備総合交付金の都市再生整備計画事業となった。

## (2) 制度の特徴

### 1. 地方の自主・裁量性の極めて高い制度

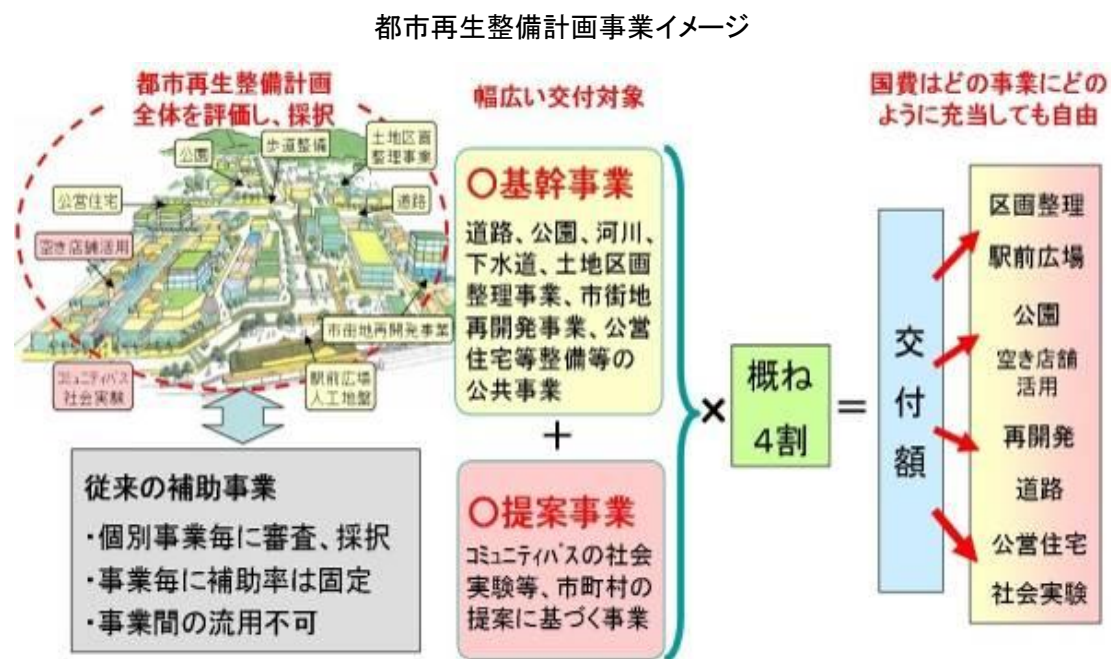
- 従来の補助事業（基幹事業）とともに、市の提案に基づく事業（提案事業）も対象となり、地域の自由度の高い形でのまちづくりを実現。

### 2. 事前の具体的目標設定と事後評価の重視

- 計画策定時に住民活動等を含む総合的取り組みで達成する目標、指標を設定。
- 計画に定められた指標の達成状況等を事後に評価、公表。

### 3. 手続きの簡素化による、使い勝手の大幅な向上

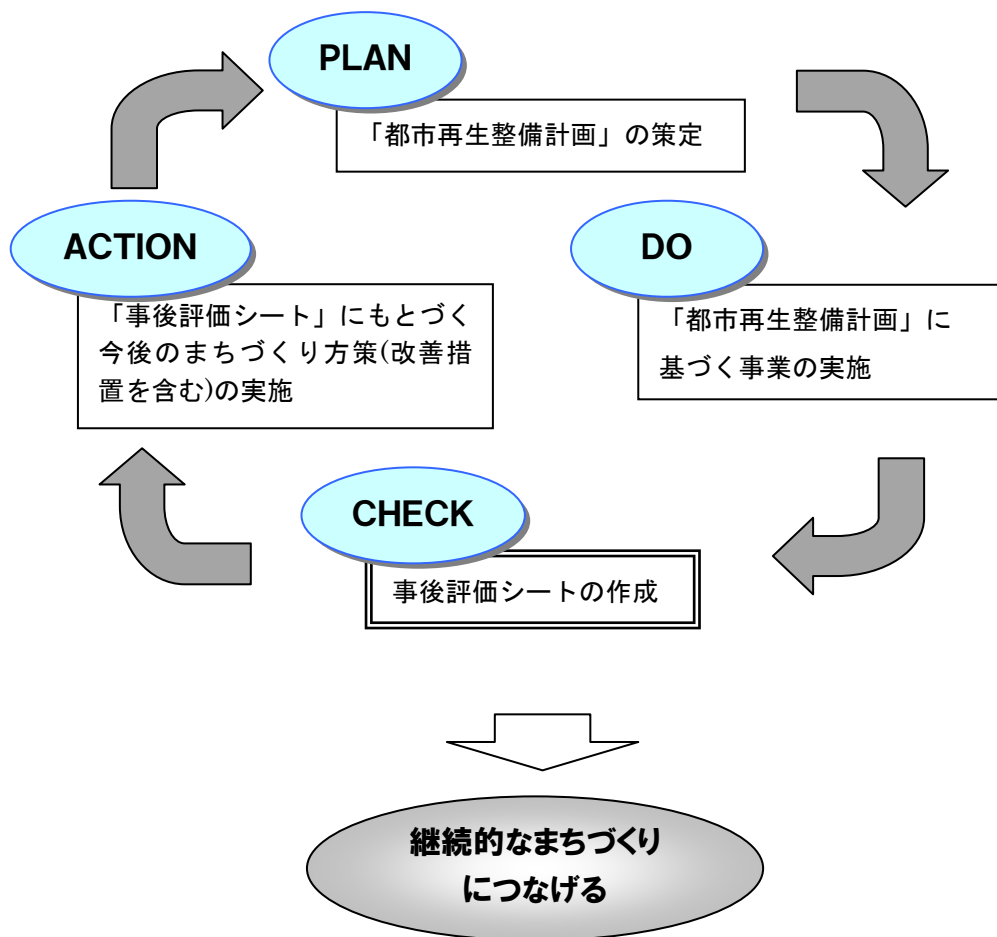
- 事業間の流用が自由。
- 事業の進捗状況に応じて、年度間での負担割合の調整が可能。



## 1-1 事後評価の要旨

### (1) 都市再生整備計画事業の流れ

都市再生整備計画事業では、下図のようなPDC Aサイクルの考えを用いて、事業評価を事業の良否判断のみに終わらせず、今後のまちづくりに反映するなど、まちづくりの成果を高める働きかけを行っている。



### (2) 事後評価の仕組み

#### ①事後評価の目的

事業の成果を住民に分かりやすく説明し、交付金を客観的に診断して、今後のまちづくりを適切な方向に導くことを目的とする。

#### ②事後評価の主体

事後評価は、市町村が実施し、その結果を国に報告する。

#### ③事後評価の時期

事後評価は、交付金の交付終了年度に行う。

未確定の数値がある場合については、交付終了時の状況を見込みの値により評価する。また、事後評価時に見込みの値を用いた場合は、原則、交付期間終了翌年度に、確定済みの数値により、事後評価のフォローアップを行う。

### (3) 事後評価の内容

事後評価は、まちづくり目標の達成を確認するとともに、今後のまちづくり方策を策定するもので、その基幹的部分は、次の項目で構成される。

#### 1) まちづくりの目標等の達成状況等の確認

数値目標の達成状況及び実施過程の検証を行うもので、具体的な確認項目は以下の通りである。

##### 【成果の評価】

- ・ 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- ・ 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況
- ・ 都市再生整備計画変更の理由・指標への影響
- ・ 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- ・ その他の数値目標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

### 【実施過程の評価】

- ・ モニタリングの実施
- ・ 住民参加プロセスの実施状況
- ・ 持続的なまちづくり体制の構築状況

### 2) 今後のまちづくりを検討

成果及び実施過程の評価の後、効果発現要因\*を整理して、今後のまちづくり方策を検討する。また、現状のままでは数値指標の達成が見込まれない場合は、今後のまちづくり方策の一部として改善策を作成する。

### 3) 評価結果をチェック

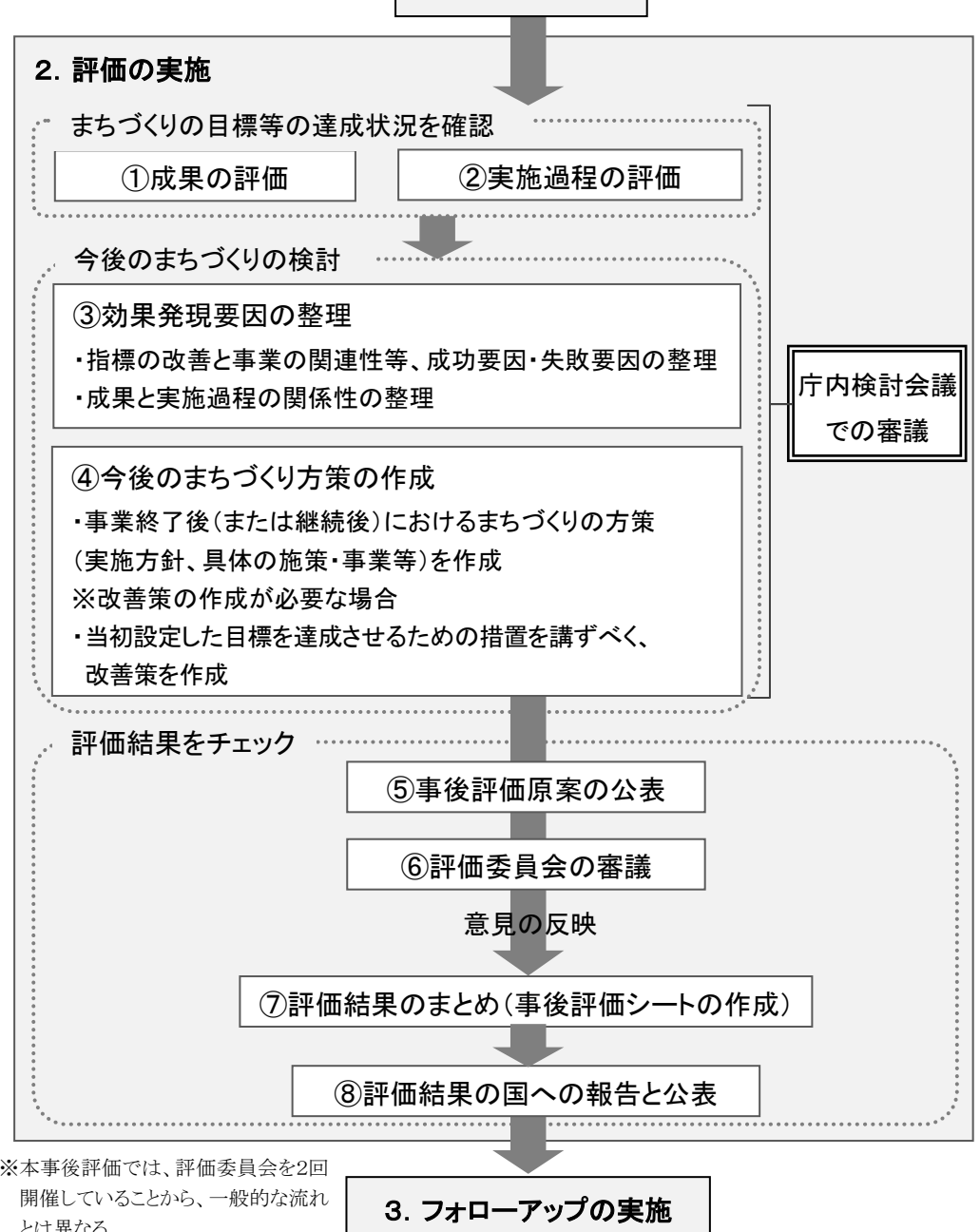
事後評価の合理性・客観性を担保するために、評価結果を住民に公表し、住民からの意見がある場合は、それを適切に反映するとともに、第三者により構成される事後評価委員会で、事後評価全般にわたる評価作業の適切さの確認をする。

#### ※効果発現要因の整理

成果と実施過程について、それぞれの評価結果に至った要因整理を行う。都市再生整備計画事業では、結果(事業の成否)だけでなく、その結果に至るまでのプロセスや原因等を総合的に分析することによって、成功要因は今後のまちづくりに活かし、十分な成果が出ていない場合等はその原因を究明して改善につなげることを重要視する。

また、整理の一環として、どの事業を実施したことが指標の改善に大きく貢献したのか、指標の改善と事業との関連性を確認する。

### 【例：事後評価の作成フロー】

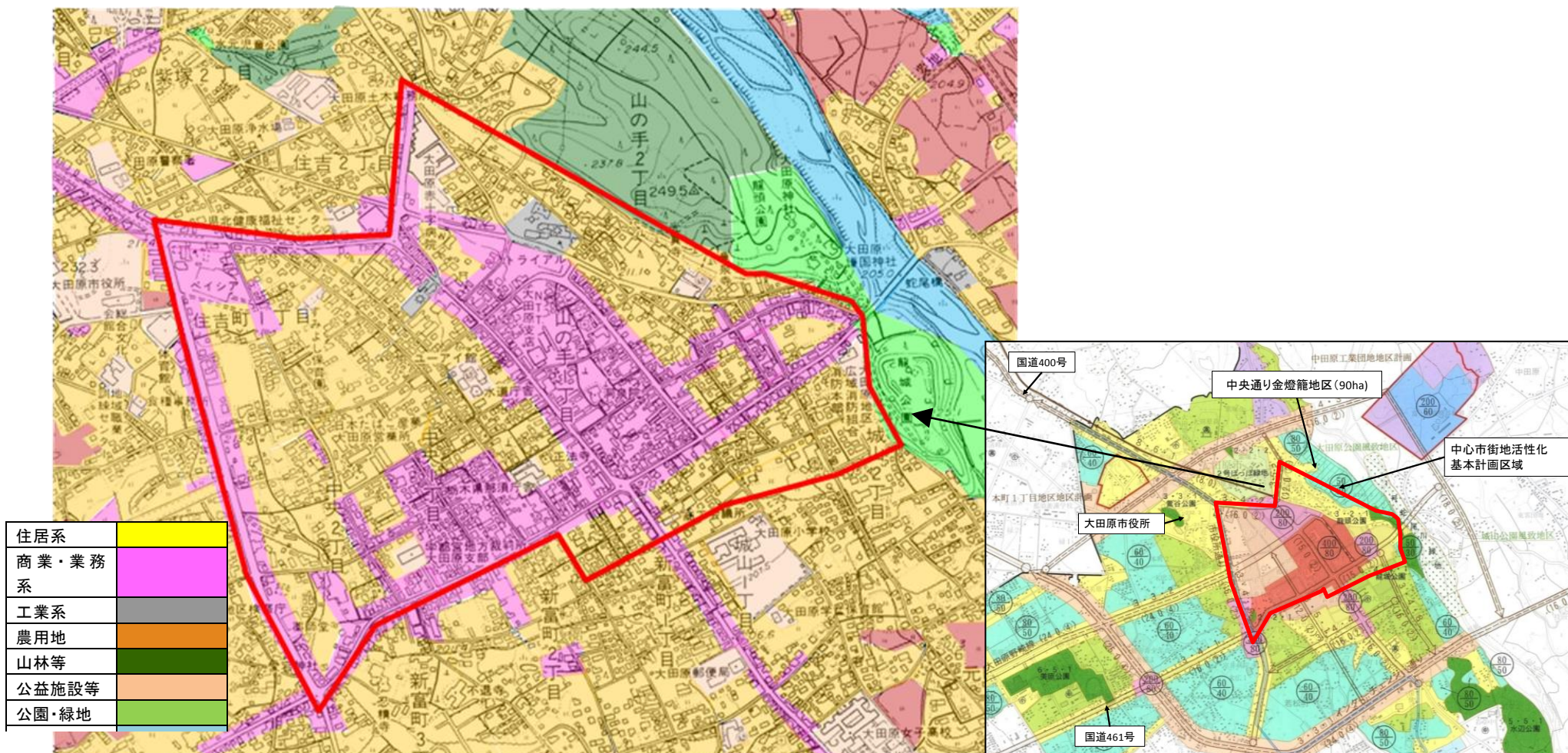


## 2. 大田原中央通り金燈籠地区の概要

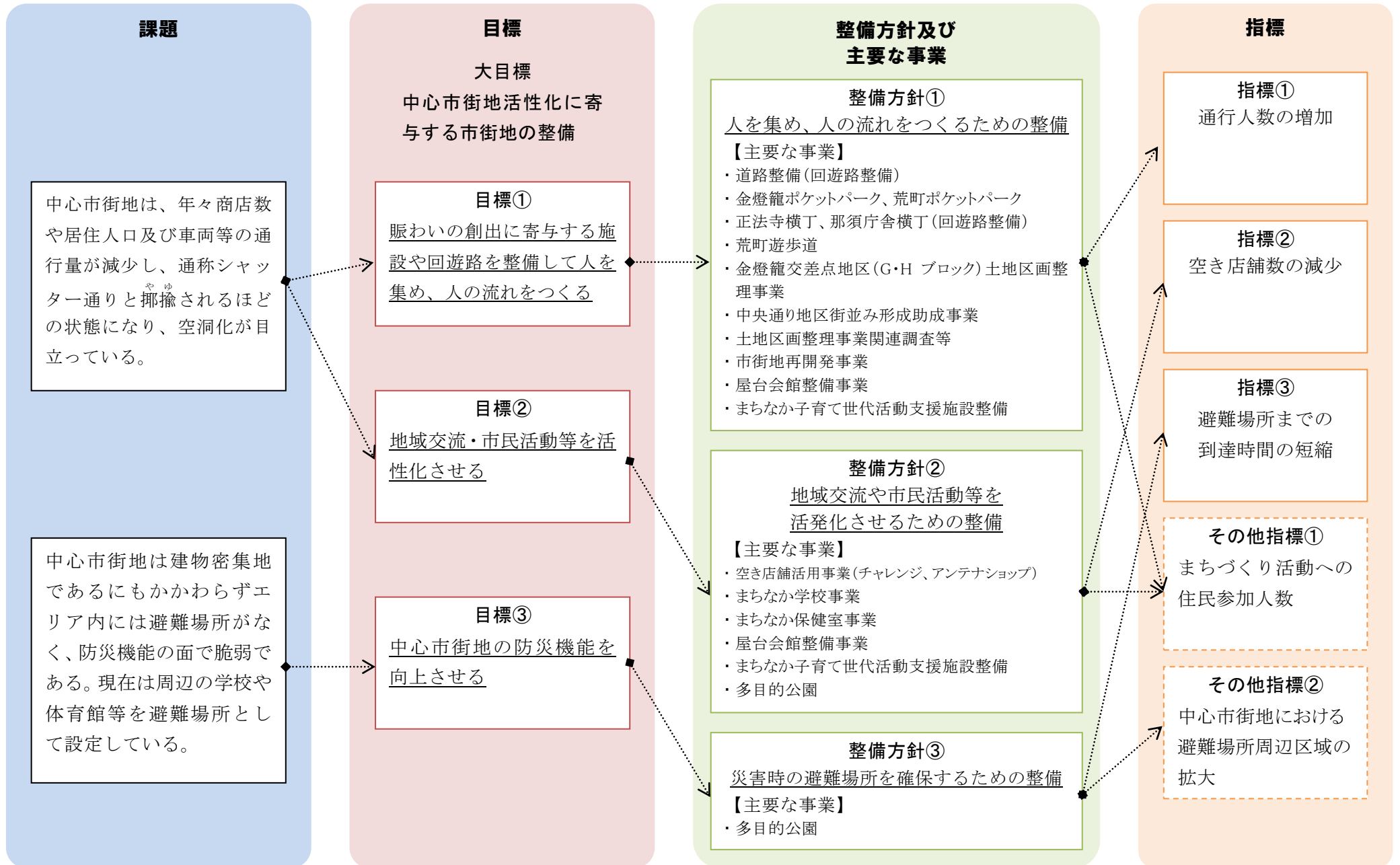
### (1) 位置図と地区概要

#### 大田原中央通り金燈籠地区の概要

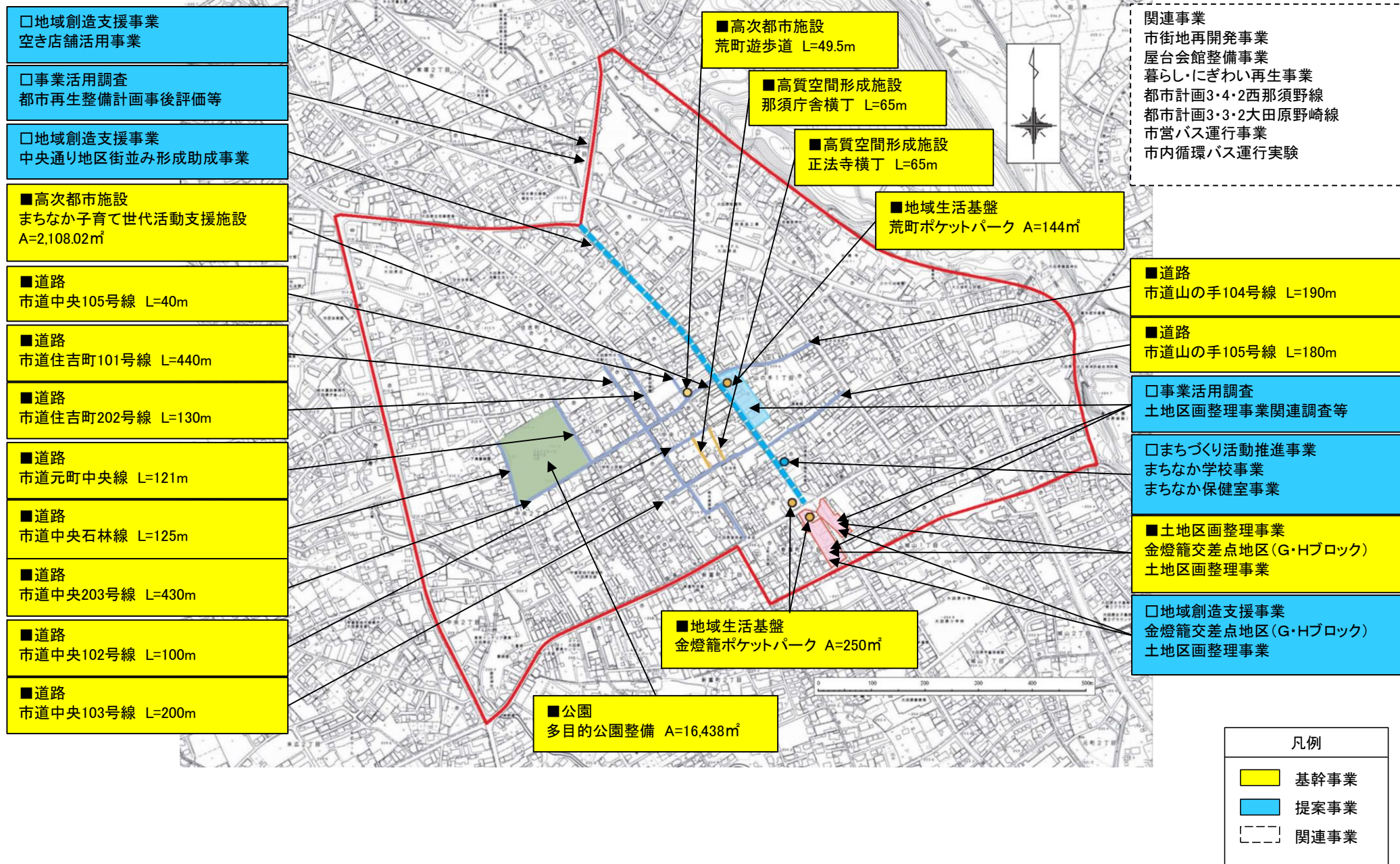
本地区は、城下町として長い歴史と伝統をもち、県北地域の中心的な商業市街地として繁栄してきた。江戸時代には旧陸羽街道の宿場町として発展した。その後、物資の集散基地として商業流通のにぎわいを見せるようになり、戦後は高度経済成長期と歩調を合わせるように発展してきた。しかし、近年では交通機関の発達や市民の生活様式の変化により、人口や商業施設の減少など、市街地の空洞化が進んでいる地区である。



(2) 課題、目標、整備方針等の整理

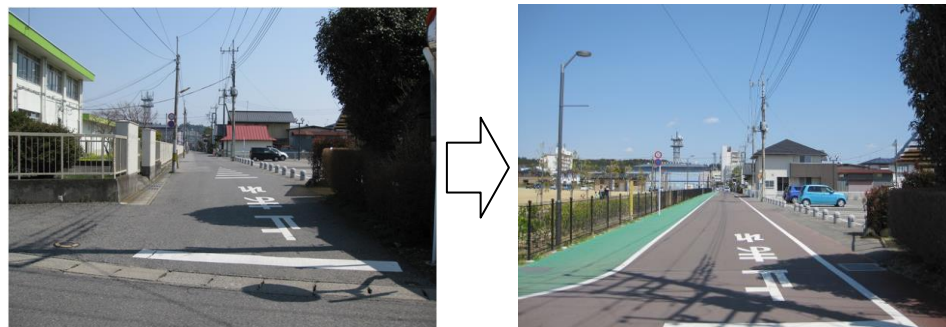


### (3) 整備方針概要



(4) 事業の進捗状況

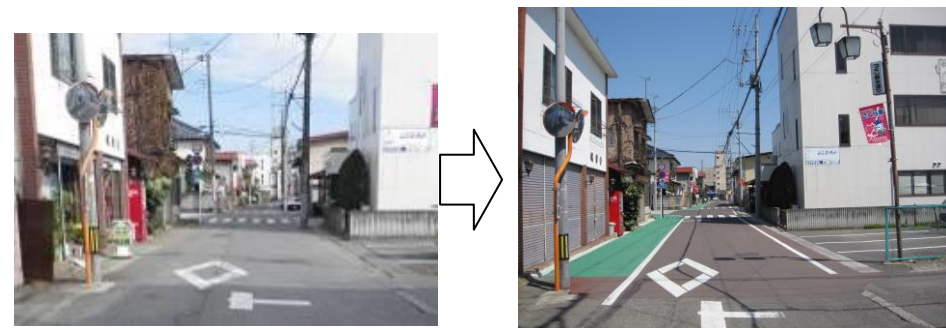
道路：市道中央 203 号線（整備完了）



道路：市道中央 102 号線（整備完了）



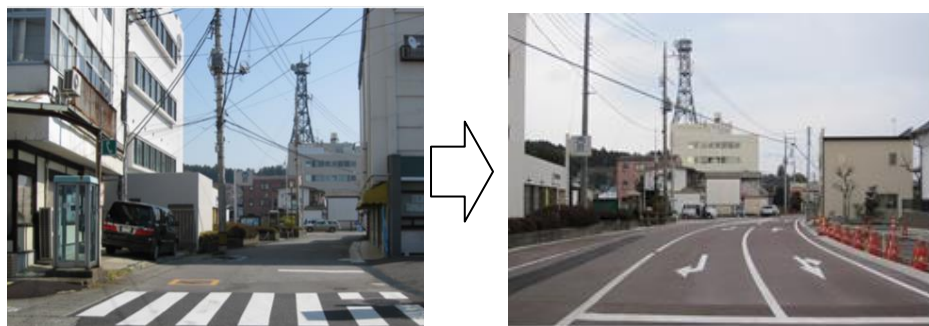
道路：市道中央 103 号線（整備完了）



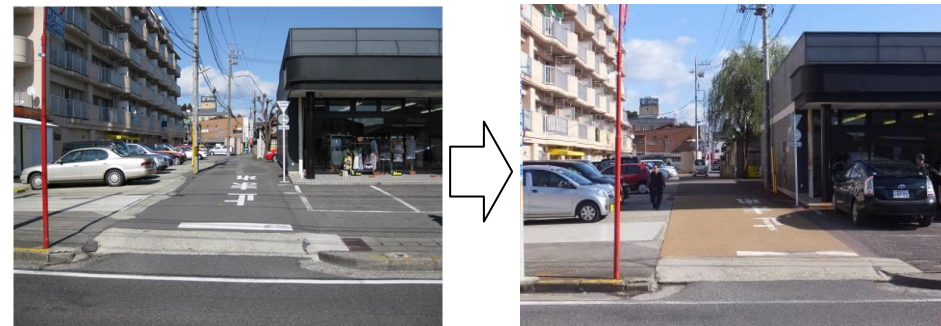
道路：市道中央 105 号線（整備完了）



道路：市道山の手 104 号線（整備完了）



道路：市道山の手 105 号線（整備完了）





道路：市道住吉町 101 号線（整備完了）



道路：市道住吉町 202 号線（整備完了）



道路：市道元町中央線（整備完了）



道路：市道中央石林線（整備完了）



公園：多目的公園（整備完了）



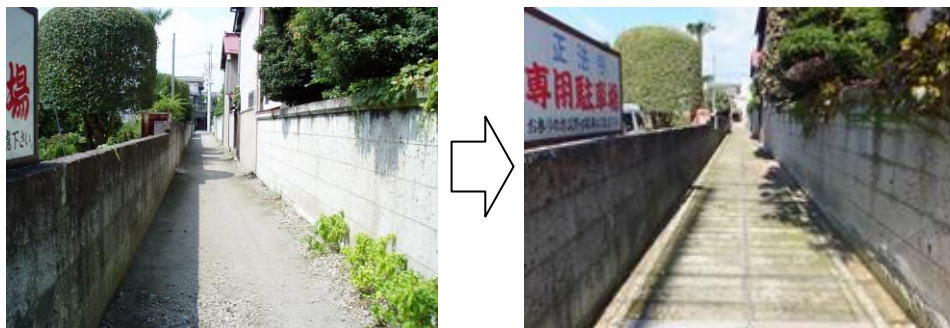
地域生活基盤施設：金燈籠ポケットパーク（整備完了）



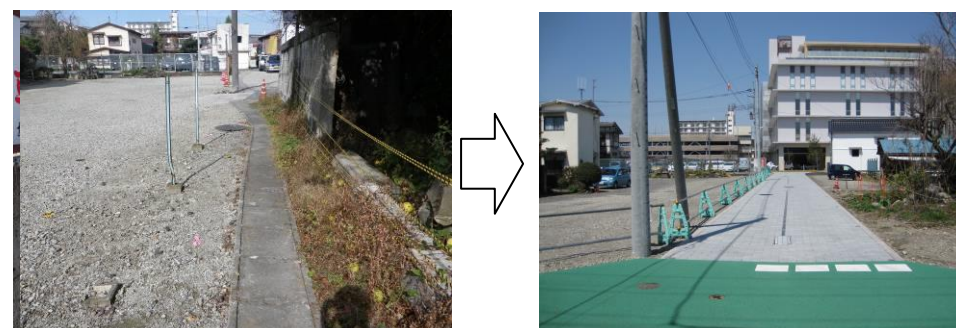
地域生活基盤施設：荒町ポケットパーク（整備完了）



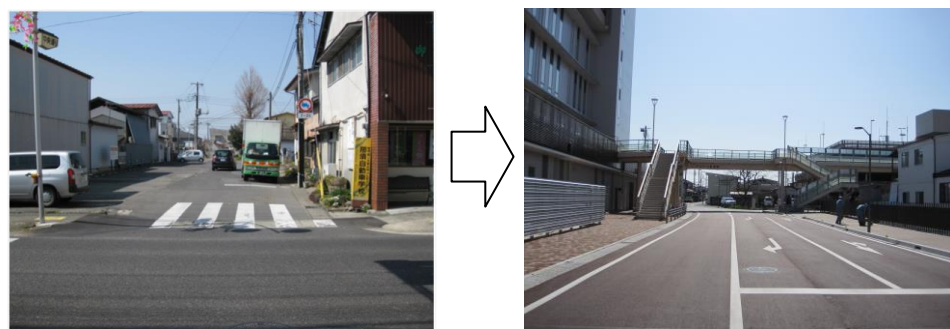
高質空間形成施設：那須庁舎横丁（整備完了）



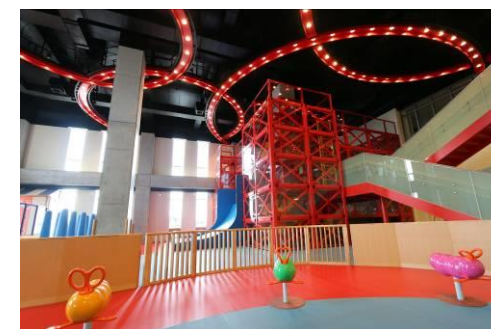
高質空間形成施設：正法寺横丁（整備完了）



高次都市施設：荒町遊歩道（整備完了）



高次都市施設：まちなか子育て世代活動支援施設（整備完了）



平成 25 年 12 月 15 日  
再開発ビル内にオープン

土地区画整理事業：金燈籠交差点地区（G・Hブロック）土地区画整理事業（整備中：平成28年3月完了予定）



地域創造支援事業：空き店舗活用事業（チャレンジ、アンテナショップ）（未実施）

未実施  
計画より削除

地域創造支援事業：中央通り地区街並み形成助成事業（実施）



※助成を利用した建物

まちづくり活動推進事業：まちなか学校事業（実施）・まちなか保健室事業（実施）



### 3. 事後評価結果について

#### 3-1 指標の目標達成度(成果の評価)

指 標		従 前 値		目 標 値		評 価 値			
		設定根拠		設定理由		評価方法	確定/見込み※	目標達成度	
指標 1	通行人数の増加	2,301人/日	平成 20 年 9 月に実施した、中心市街地 8 箇所における休日 9 時間(9 時～18 時)の歩行者及び自転車交通量の合計を通行人数とし、従前値として設定。	3,000人/日	サティが撤退する前の平成 11 年度の歩行者・自転車通行量(4,000 人以上)に戻すことを目標とし、平成 25 年度時点では約 3,000 人の通行量を目標に設定。	2,471人/日	平成 25 年 10 月に実施した、中心市街地 8 箇所における休日 9 時間(9 時～18 時)の歩行者及び自転車交通量の合計を通行人数とし、評価値(見込み値)とする。	見込み	△
指標 2	空き店舗数の減少	63 件	平成 20 年に実施した、中心市街地内における空き店舗の実態調査により、空き店舗数を従前値として設定。	55 件	中心市街地の空洞化が進んでいるが、空き店舗活用事業や市街地再開発事業を実施し、まちの活性化を図ることにより、空き店舗数を 55 件として設定。	53 件	平成 25 年 9 月時点の空き店舗数を評価値(見込み値)とする。	見込み	○
指標 3	避難場所までの到達時間の短縮	10 分	既存避難場所間の中間地点から、避難場所までの到達時間を計測(図上求測に基づく避難場所までの到達時間を計測)し従前値として設定。	2 分	本地区内に、防災機能をもった多目的公園が整備されることにより、最寄りの避難場所までの到達時間が短縮されるが見込まれることから、目標値を 2 分として設定。	2 分	従前の起点(既存避難場所間の中間地点)から最寄りの避難場所までの到達時間を計測(図上求測に基づく避難場所までの到達時間を計測)	確定	○
その他 1	まちづくり活動への住民参加人数	—	—	—	—	2,669 人	平成 21 年度から 5 年間の各住民活動の総参加者の延人数を評価値(見込み値)とする。	見込み	—
その他 2	中心市街地における避難場所周辺区域の拡大	48.1 %	図上求測に基づく避難場所周辺区域の面積を中心市街地面積で割返すことにより、従前値として設定。	—	—	78.9 %	図上求測に基づく避難場所周辺区域の面積を中心市街地面積で割返すことにより、評価値とする。	確定	—

※事後評価シートを作成したフォローアップ前の平成 26 年 3 月末現在の資料になるため、見込みと表現している。

目標達成度(評価の基準)

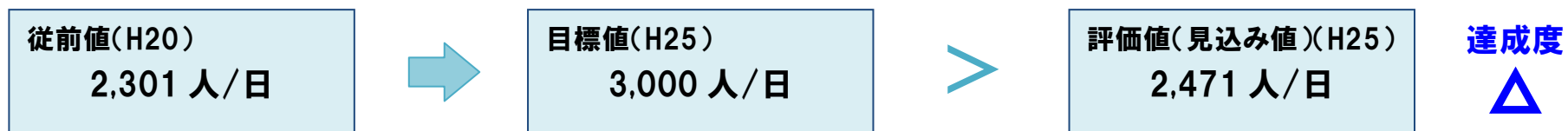
○：評価値が目標値を上回った場合

△：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×：評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

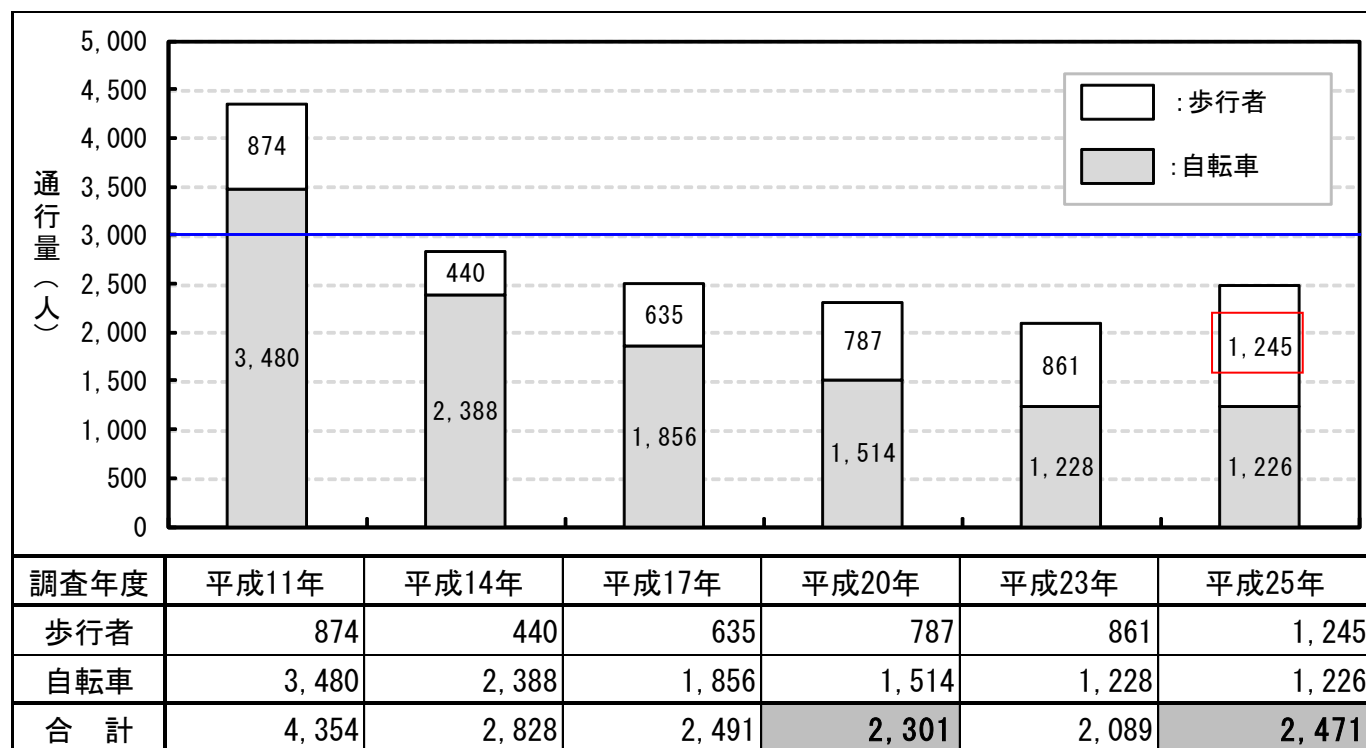
(1) 指標 1 通行人数の増加

<p>■設定根拠 平成 20 年 9 月に実施した、中心市街地 8 箇所における休日 9 時間(9 時～18 時)の歩行者及び自転車交通量の合計を通行人数とし、従前値として設定。</p>	<p>■評価値の考え方 平成 25 年 10 月に実施した、中心市街地 8 箇所における休日 9 時間(9 時～18 時)の歩行者及び自転車交通量の合計を通行人数とし、評価値とする。</p>	<p>■目標達成度の理由 目標値に至っていないが、近年の傾向よりは改善しており、通行人数の増加に影響を与える再開発ビル「トコトコ大田原」のオープンが商業施設(1 階)のみであった。また、中心市街地の通行人数に与える事業が平成 25 年度末に事業完了となるため、1 年以内に達成する見込みは高い。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



※ 1 年以内に目標達成見込み

■交通量調査の経年変化

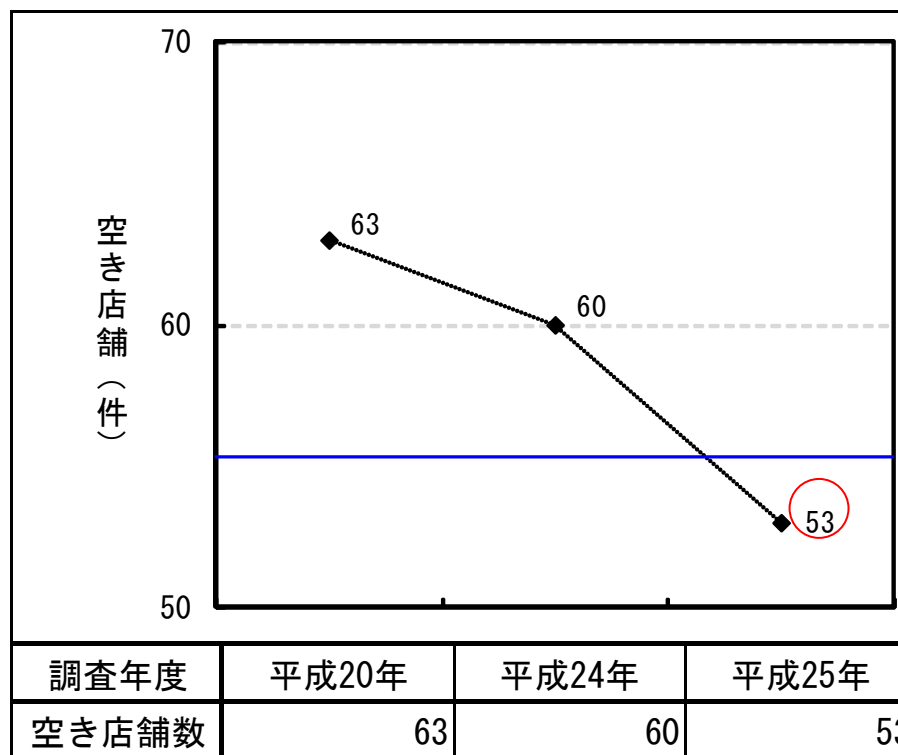


## (2) 指標2 空き店舗数の減少

<p>■設定根拠</p> <p>平成20年に実施した、中心市街地内における空き店舗の実態調査により、空き店舗数を従前値として設定。</p>	<p>■評価値の考え方</p> <p>平成25年9月時点の空き店舗数を評価値(見込み値)とする。</p>	<p>■目標達成度の理由</p> <p>まちなか学校事業の開催や市街地再開発事業(再開発ビル)を整備したことにより、中心市街地の賑わいを創出したことで空き店舗数の減少に貢献しているものと考えられる。</p>
-----------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------



■空き店舗数の経年変化



### (3) 指標3 避難場所までの到達時間の短縮

#### ■ 設定根拠

既存避難場所間の中間地点から、避難場所までの到達時間を計測（図上求測に基づく避難場所までの到達時間を計測）し従前値として設定。

#### ■ 評価値の考え方

従前値と同様に、従前の起点（既存避難場所間の中間地点）から最寄りの避難場所までの到達時間を計測（図上求測に基づく避難場所までの到達時間を計測）

#### ■ 目標達成度の理由

防災機能をもった多目的公園が中心市街地内に整備されたことにより、避難場所までの到達時間が大幅に改善することができ、中心市街地内の防災機能が向上した。

従前値(H20)  
10分



目標値(H25)  
2分



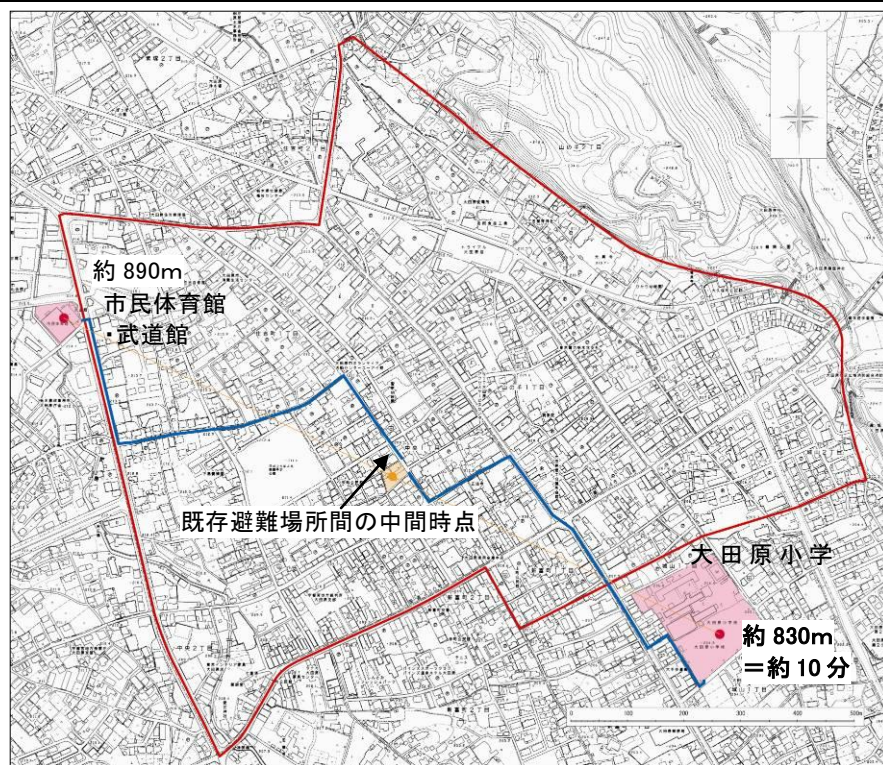
評価値(確定値)(H25)  
2分

達成度  
○

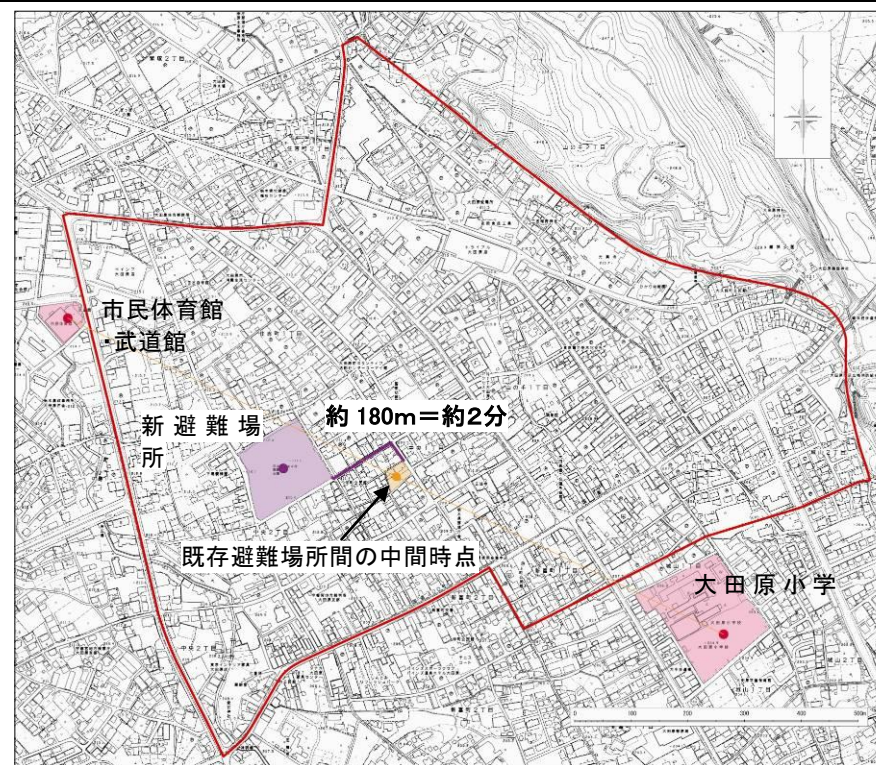
#### ■ 避難場所までの到達時間

徒歩による所要時間は、道路距離80mにつき、約1分間を要するものとして算出

従前値



評価値



(4) その他指標 1 まちづくり活動への住民参加人数

■設定理由

「まちなか学校」等の参加者や「中心市街地活性化協議会」活動に係る住民参加人数を把握し、整備方針である『地域交流や市民活動を活性化させるための整備』に向けた効果を測る。

■評価値の考え方

平成 21 年度から 5 年間の各住民活動の総参加者の延人数を評価値とする

評価値(見込み値)(H25)

2,669 人

■平成 21 年度から 5 年間の住民参加活動

実施日	名称		参加人数
平成 21 年 8 月 8 日 (土)	まちなか学校	まちなか健康ウォーキング講座	55 人
平成 21 年 10 月 3 日 (土)		わがまち講座	30 人
平成 22 年 8 月 7 日 (土)		まちなか創作ダンス講座	84 人
平成 24 年 3 月 17 日 (土)	中心市街地 活性化協議会	第 1 回サウンドクロス	750 人
平成 24 年 10 月 7 日 (日)		第 2 回サウンドクロス	750 人
平成 25 年 10 月 20 日 (日)		第 3 回サウンドクロス	1,000 人
計			<b>2,669 人</b>

※中心市街地活性化協議会の参加人数については、概算人数である。





平成 26 年 1 月～3 月に開催した「まちなか学校・まちなか保健室事業における市民参加」の開催結果は以下のようになっている。

ここでの結果は「フォローアップ計画」において、まちづくり活動への住民参加人数として含まれる。そのため、前頁の評価値（見込み値）には含まれていない。※事後評価シートを作成した平成 26 年 3 月末現在のデータであり、フォローアップを行った結果ではありません。

**H26.1～3 月の記録  
260 人**

◆まちなか学校

実施日	名称	開催場所	参加人数
平成 26 年 1 月 21 日（火）	まちなかビューティー教室	トコトコ大田原 3 階会議室	13 人
平成 26 年 1 月 26 日（日）	まちなか親子お菓子作り教室	トコトコ大田原 3 階親子ふれあいキッチン	21 人
平成 26 年 2 月 5 日（水）～7 日（金）	まちなか星空教室	まちなか	120 人
平成 26 年 2 月 6 日（木）	まちなかデジタルカメラ教室	トコトコ大田原 3 階会議室及びまちなか	16 人
平成 26 年 2 月 22 日（土）	まちなかフリマ教室		11 人
		計	<b>181 人</b>

※：まちなかラリー囲碁教室は開催予定であったが中止となった。

◆まちなか保健室

実施日	名称	開催場所	参加人数
平成 26 年 1 月 22 日（水）	まちなか保健室	トコトコ大田原 3 階会議室	18 人
平成 26 年 1 月 26 日（日）			24 人
平成 26 年 2 月 13 日（木）			11 人
平成 26 年 2 月 22 日（土）			5 人
平成 26 年 3 月 2 日（日）			14 人
平成 26 年 3 月 14 日（金）			7 人
		計	<b>79 人</b>

(5) その他指標2 中心市街地における避難場所周辺区域の拡大

■設定理由

指標3「避難場所までの到達時間の短縮」を補完し、整備方針『災害時の避難場所を確保するための整備』の効果を測る。

■評価値の考え方

図上求測に基づく避難場所周辺区域の面積を中心市街地面積で割返すことにより、評価値とする。

※消防庁舎裏城山公園は、平成20年度当時、避難場所として指定されていたが、平成21年度に土砂災害計画区域に指定されたため、避難場所の指定が解除された。そのため、平成20年度と平成25年度では比較対象としてならないことから、ここでは面積として計上していない。

従前値(H20)  
48.1%

評価値(確定値)(H25)  
78.9%



従前値(平成20年度)

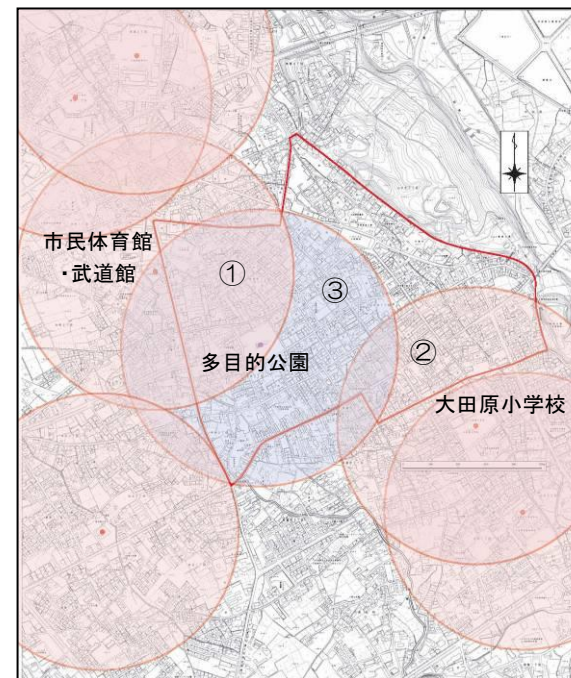
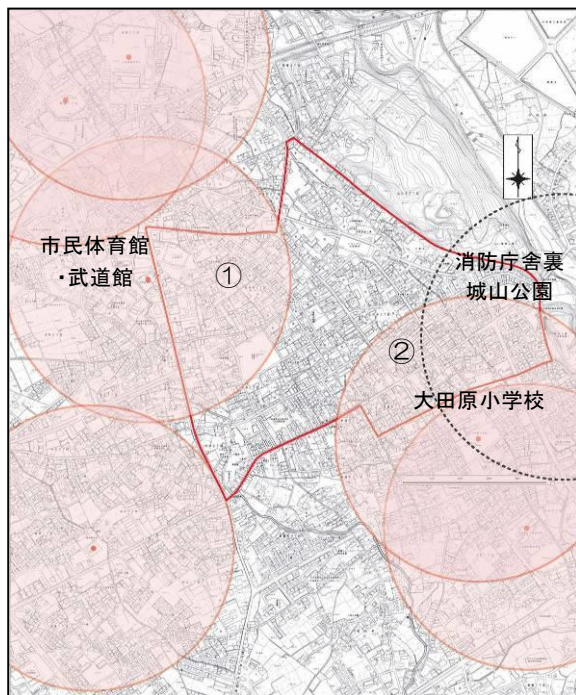
評価値(平成25年度)

区域内	面積
①	230,062 m <sup>2</sup>
②	210,941 m <sup>2</sup>
計	441,003 m <sup>2</sup>

区域面積 : 916,443 m<sup>2</sup>

区域内	面積
①	230,062 m <sup>2</sup>
②	210,941 m <sup>2</sup>
③	282,471 m <sup>2</sup>
計	723,474 m <sup>2</sup>

※③は重複部分除く



## 3-2 実施過程の評価

モニタリングおよび住民参加プロセスの実施状況、その他持続的なまちづくり体制構築に資する事業を把握し、都市再生整備計画の運用過程に関する事項を整理した。

### ・住民参加プロセスの実施状況

実施した内容	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針
中央通り地区 街並み形成助成 事業における 市民参加	<p>【実施頻度】計 40 件            【実施時期】平成 21 年度～平成 25 年度            【実施結果】助成金額は、合計 19,393,000 円となり、店舗所有以外(住宅)の方も積極的に助成を利用する等、城下町・宿場町として個性的で魅力的な街並みの形成を図っている。その中で「街並みづくり協定書」に沿って建てられた建築物(助成を利用した建築物等)から、市民投票により市民景観賞を選定する「第 1 回 みんなで選ぶ中央通り街並み景観コンクール」を実施(実施主体は大田原市中心市街地活性化協議会)している。景観に対する意識を高め、景観形成に参画することを目的とし、景観を観に中央通りに人が訪れたり、市外の方も景観コンクールに参加する等、助成事業により中心市街地の魅力を伝えることができた。</p>	<p>今後も「中央通り地区街並み形成助成事業」の実施を予定しており、城下町・宿場町として個性的で魅力的な街並みを形成していきたい。</p>
空き店舗活用 事業に関わる 市民参加	<p>予定したが、実施しなかった。            理由:市(商工観光課)が商工会議所と連携して空き店舗を活用する事業を行っているほか、中心市街地活性化協議会においても同様の事業を行っているため、都市再生整備計画での空き店舗活用事業は予定したが実施しなかった。</p>	<p>商工会議所や中心市街地活性化協議会とさらに連携を強化し空き店舗を活用できるような事業の実施を検討するほか、市(商工観光課)で商工会議所と連携しながら平成 24 年度より、実施している「大田原市起業再出発支援事業」を継続させ、空き店舗活用に向けた取り組みを行っていききたい。</p>
まちなか学校・ まちなか保健室 事業における 市民参加	<p>【実施頻度】計 14 回(事後評価シートでは、15 回と記載したが、1 回中止となったため実施は計 14 回となった。)            【実施時期】平成 21 年度～平成 25 年度            【実施結果】「まちなか健康ウォーキング講座(参加者:55 人)」、「まちなか創作ダンス講座(参加者:84 人)」、「まちなか星空教室(参加者:120 人)」などを実施し、「健康づくり」に関する意識啓発や「学び」「交流」の場を提供することで、まちなかの賑わいの創出につながった。</p>	<p>平成 26 年 1 月～3 月においては、市街地再開発事業にて整備したトコトコ大田原の 3 階会議室等を利用した「まちなか学校・まちなか保健室事業」を開催し、参加者から好評であったことから、今後も「まちなか学校・まちなか保健室事業」を実施予定である。</p>

※「モニタリングの実施状況」、「持続的なまちづくり体制の構築状況」については、実施していない。

### 3-3 効果発現要因の整理

成果と実施時期について、それぞれの評価結果に至った要因を成功・失敗に関わらず分析し、整理を行った。

#### ・数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標改善への貢献度  
 ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。 △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。  
 ○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。 —：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

指標名		指標1:通行人数の増加		指標2:空き店舗数の減少		指標3:避難場所までの到達時間の短縮		その他の数値指標1:まちづくり活動への住民参加者		その他の数値指標2:中心市街地における避難場所周辺区域の拡大	
事業名・箇所名		指標改善への貢献度	内容	指標改善への貢献度	内容	指標改善への貢献度	内容	指標改善への貢献度	内容	指標改善への貢献度	内容
基幹事業	道路: 市道中央 203 号線、 市道中央 102 号線、 市道中央 103 号線、 市道中央 105 号線、 市道山の手 104 号線、 市道山の手 105 号線、 市道住吉町 101 号線、 市道住吉町 202 号線、 市道元町中央線、 市道中央石林線	◎	道路(回遊路)を整備したことにより、中心市街地内の回遊性を高めたことで、歩行者が大幅に増加した。	—	—	○	道路(回遊路)を整備したことにより、円滑に避難することが見込まれている。	—	—	—	—
	公園:多目的公園整備	○	多目的公園は、市民の憩いの場として利用され、中心市街地内に人を集めている。	—	—	◎	多目的公園が中心市街地内に整備されたことにより、避難場所までの到達時間が大幅に改善した。	△	多目的公園はイベントや市民活動の場として活用することで、地域交流や市民活動等を活発化させていきたい。	◎	多目的公園が中心市街地内に整備されたことにより、中心市街地における避難場所周辺区域が拡大した。
	地域生活基盤施設: 金燈籠ポケットパーク、 荒町ポケットパーク	○	中心市街地の憩いの場としての利用したことにより、気軽に歩行できる環境を整えることができている。	—	—	—	—	○	金燈籠ポケットパークは、コンサートやイベント活動で使用され、地元愛護会が清掃活動をしている等から、まちづくりへの意識向上に貢献している。	—	—

	高質空間形成施設： 正法寺横丁、 那須庁舎横丁	◎	横丁(回遊路)を整備したことにより、中心市街地内の回遊性を高めたことで、歩行者が大幅に増加した。	—	—	—	—	—	—	—	—
	高次都市施設： 荒町遊歩道、 まちなか子育て世代活動支援施設	○	立体遊歩道を整備したことにより、再開発ビルへのアクセス向上に貢献している。(荒町遊歩道)	—	—	—	—	△	今後、まちなか子育て世代活動支援施設は子育て世代が文化活動等を積極的に行える拠点として活用していきたい。(まちなか子育て世代活動支援施設)	—	—
	土地区画整理事業： 金燈籠交差点地区(G・Hブロック)土地区画整理事業	△	都市計画道路の拡幅整備と併せて、生活再建に配慮した一体的な整備を図ることにより、中心市街地の賑わいを創出に貢献していきたい。	—	—	—	—	—	—	—	—
提案事業	地域創造支援事業： 空き店舗活用事業 (チャレンジ、アンテナシヨップ) ※未実施(削除)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	地域創造支援事業： 中央通り地区街並み形成助成事業	◎	城下町・宿場町として個性的で魅力的な街並みの形成を図ったことで、中心市街地内のお店を訪れた人もおり、市外から訪れた人もいたことから通行人数の増加に貢献している。	—	—	—	—	○	中心市街地内の魅力(お店)を伝えたことで、まちづくりへの興味を高めたことから、まちづくり活動の参加に貢献している。	—	—

	事業活用調査： 土地区画整理事業関連調査等、都市再生整備計画事後評価事業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	まちづくり活動推進事業： まちなか学校事業、まちなか保健室事業	—	—	○	まちなか学校事業を開催したことにより、地域交流や市民活動等を活発化させたことで、空き店舗の減少に貢献している。	—	—	◎	まちなか学校事業を開催したことにより、地域交流や市民活動等を活発化させることで、まちづくり参加者の増加に貢献した。	—	—
関連事業	市街地再開発事業	◎	再開発ビルをオープンしたことにより、中心市街地の賑わいを創出したことで、歩行者が大幅に増加した。	○	市街地再開発事業(再開発ビルや街路)を整備したことにより、中心市街地の賑わいを創出したことで、空き店舗の減少に貢献している。	—	—	—	—	—	—
	屋台会館整備事業	—	—	△	実施時期については未定だが、事業が進むよう検討していきたい。	—	—	—	—	—	—
	暮らし・にぎわい再生事業	△	今後、再開発ビル内にオープンすることで、中心市街地の賑わいに貢献していきたい。	—	—	—	—	—	—	—	—
	都市計画 3・4・2 西那須野線	△	今後、整備完了することで、中心市街の賑わいの創出やまちなみの景観向上に貢献していきたい。	—	—	△	今後、整備完了することで、円滑に避難することが見込みたい。	—	—	—	—
	都市計画 3・3・2 大田原野崎線	△	今後、整備完了することで、中心市街地の賑わいの創出やまちなみの景観向上に貢献していきたい。	—	—	△	今後、整備完了することで、円滑に避難することが見込みたい。	—	—	—	—

市営バス運行事業	◎	中心市街地内の賑わいの創出に寄与する施設へ運行している等、中心市街地内に人を集めている。	—	—	—	—	—	—	—
	○	市内循環バス運行は実験段階であるが、中心市街地内に人を集めていることから、通行人数の増加に貢献している。	—	—	—	—	—	—	—



総合所見	道路(回遊路)の整備や市街地再開発事業(再開発ビルのオープン)により、歩行者が大幅に増加したが、平成25年10月の評価値(見込み値)は目標値には至っていない。通行人数の増加につながる事業が平成25年度末に完了したため、今後は中心市街地の賑わい創出や通行人数の増加に努めていきたい。	まちなか学校事業の開催や市街地再開発事業(再開発ビルや街路)をしたことにより、中心市街地の賑わいを創出したことで空き店舗数の減少に貢献しているものと考えられる。	多目的公園が中心市街地内に整備されたことにより、避難場所までの到達時間が大幅に改善することができた。今後は、都市計画道路の整備完了をすることで、さらに防災機能を高めたい。	まちなか学校事業を開催したことにより、地域交流や市民活動等を活発化させることに貢献した。	多目的公園が中心市街地内に整備されたことにより、中心市街地における避難場所周辺区域が拡大したことで、中心市街地の防災機能が向上した。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------



今後の活用	中心市街地の賑わい創出に寄与する施設や回遊路を整備したため、今後はそれらを活用(ソフト事業)し、地域交流・市民活動を活発化させることで、中心市街地の賑わい創出を図り、通行人数の増加に努めていきたい。	今後もまちなか学校、まちなか保健室の開催や、「与一まつり」、「屋台まつり」、「一店逸品」等の既存イベントを充実させることにより、中心市街地の賑わいを創出することで、空き店舗数の減少につなげていきたい。	今後も防災機能を高めるため、円滑に避難できるように事業の早期完了(都市計画道路)に努め、また、避難訓練の実施や避難場所の周知等、市民の防災意識の向上についても努めていきたい。	今後も引き続き、まちなか学校、まちなか保健室を開催することで地域交流や市民活動等を活性化していきたい。	避難場所周辺区域の拡大が達成されたため、今後は避難経路や防災機能の活用方法を周知することで、市民の防災に対する意識の向上に努めていきたい。
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------

## 4. 今後のまちづくり方策について

効果発現要因の整理、残された課題や新たな課題等の検討を踏まえ、今後必要となるまちづくりの方針について検討した。

また、数値目標の達成状況において、見込値にて評価を行っている項目に関しては、次年度以降実施するフォローアップの方針を定めた。

### 4-1 まちの課題の変化

事業を実施したことにより、まちの課題がどのように変化したか等を検討した。さらに、事業の実施により新たな課題等が生じた場合は、あわせてその課題を検討した。

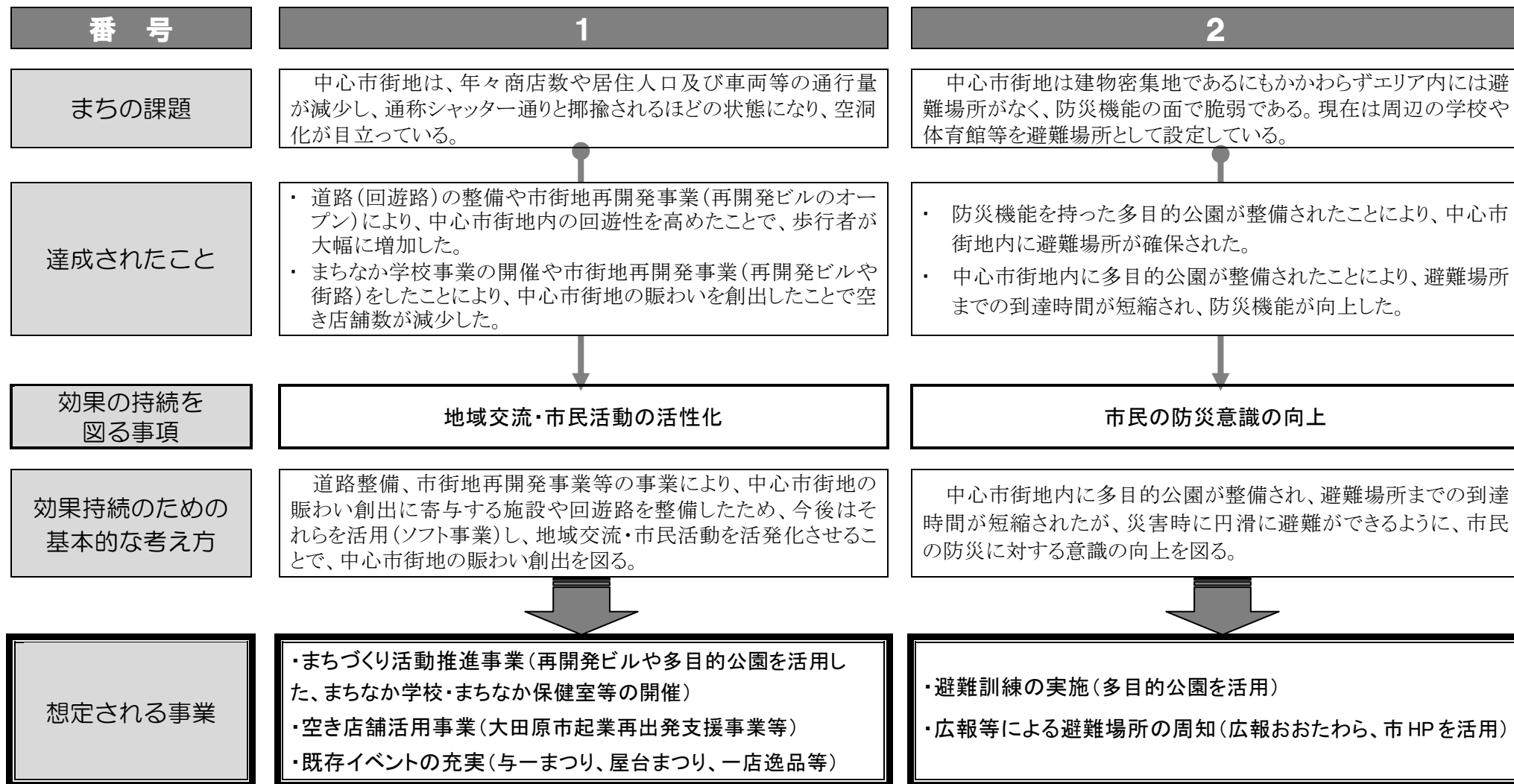
番号	事業前の課題 都市再生整備計画に 記載したまちの課題	達成されたこと (課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
1	中心市街地は、年々商店数や居住人口及び車両等の通行量が減少し、通称シャッター通りと揶揄されるほどの状態になり、空洞化が目立っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路(回遊路)の整備や市街地再開発事業(再開発ビルのオープン)により、中心市街地内の回遊性を高めたことで、歩行者が大幅に増加した。</li> <li>まちなか学校事業の開催や市街地再開発事業(再開発ビル)をしたことにより、中心市街地の賑わいを創出したことで空き店舗数が減少した。</li> </ul>	歩行者の通行量は大幅に増加(平成 20 年度:787→平成 25 年度:1,245)したものの、自転車の通行量は減少(平成 20 年度:1,514→平成 25 年度:1,226)した影響により、通行人数の目標値(3,000 人)には至らなかった。通行人数の増加を図るため、中心市街地の賑わい創出に向けた活動支援等が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回整備された道路は特定の範囲で行われたため、都市再生整備計画事業外の道路との格差が生じた。</li> <li>まちなか学校等のソフト事業により、中心市街地の賑わい創出や歩行者の通行量が増加したが、それらをどう継続していくかの取組みが必要になった。</li> <li>防災機能を持った多目的公園が整備されたことにより、災害時の避難経路の確認や指定避難場所の周知が必要になった。また、防災機能の活用方法についても周知が必要である。</li> </ul>
2	中心市街地は建物密集地であるにもかかわらずエリア内には避難場所がなく、防災機能の面で脆弱である。現在は周辺の学校や体育館等を避難場所として設定している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災機能を持った多目的公園が整備されたことにより、中心市街地内に避難場所が確保された。</li> <li>中心市街地内に多目的公園が整備されたことにより、避難場所までの到達時間が短縮され、防災機能が向上した。</li> </ul>	多目的公園は地域交流や市民活動等を活発化させていくための効果もあるため、イベントの開催や市民活動の場としての活用が必要である。また、円滑に避難ができるよう都市計画道路の早期完了が必要である。	



## 4-2 今後のまちづくり方策

交付期間終了後の交付金の効果の持続を図るため、これまでの評価結果（成果の評価、実施過程の評価、効果発現要因の整理、まちの課題の変化）を踏まえ、今後必要なまちづくりの方針や想定される施策・事業等について検討した。

### (1) 成果の持続にかかる今後のまちづくり方策



(2) 改善策にかかる今後のまちづくり方策を検討

番号	1	2
まちの課題	<p>中心市街地は、年々商店数や居住人口及び車両等の通行量が減少し、通称シャッター通りと揶揄されるほどの状態になり、空洞化が目立っている。</p>	<p>中心市街地は建物密集地であるにもかかわらずエリア内には避難場所がなく、防災機能の面で脆弱である。現在は周辺の学校や体育館等を避難場所として設定している。</p>
残された未解決の課題	<p>歩行者の通行量は大幅に増加(平成 20 年度:787→平成 25 年度:1,245)したものの、自転車の通行量は減少(平成 20 年度:1,514→平成 25 年度:1,226)した影響により、通行人数の目標値(3,000 人)には至らなかった。通行人数の増加を図るため、中心市街地の賑わい創出に向けた活動支援等が必要である。</p>	<p>多目的公園は地域交流や市民活動等を活発化させていくための効果もあるため、イベントの開催や市民活動の場としての活用が必要である。また、円滑に避難ができるよう都市計画道路の早期完了が必要である。</p>
新たな課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回整備された道路は特定の範囲で行われたため、都市再生整備計画事業外の道路との格差が生じた。</li> <li>・まちなか学校等のソフト事業により、中心市街地の賑わい創出や歩行者の通行量が増加したが、それらをどう継続していくかの取組みが必要になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災機能を持った多目的公園が整備されたことにより、災害時の避難経路の確認や指定避難場所の周知が必要になった。また、防災機能の活用方法についても周知が必要である。</li> </ul>
改善する事項	<p>中心市街地内の通行人数の増加</p>	<p>地域交流・市民活動の活性化・市民の防災意識の向上</p>
改善策の基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・城下町・宿場町として個性的で魅力的な街並みの形成を図る。</li> <li>・再開発ビルの商業施設及び公共公益施設の利用者を増やし、まちなかの集客が増えるよう、イベントの開催や広報活動に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流や市民活動等を活発化させるためのイベントを行う。</li> <li>・円滑に避難ができるよう都市計画道路の早期完了に努める。</li> <li>・災害時の対応(行動手順)と防災機能の活用方法を定着させることで市民の防災に対する意識の向上を図る。</li> </ul>
想定される事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個性的で魅力的な街並みの形成(中央通り地区街並み形成助成事業)</li> <li>・市道整備の継続</li> <li>・イベント開催等のソフト事業の実施(「おたわら賑わいレシートまつり」等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント等の開催</li> <li>・都市計画道路の整備の推進</li> <li>・防災講習会及び多目的公園の防災機能を活用した体験学習会の開催</li> </ul>

### 4-3 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を整理した。 ※事後評価シートを作成した平成26年3月末現在の計画になります。

		従前値	目標値	評価値	確定／見込み	目標達成度	フォローアップ計画	
							予定時期	計測方法
指標1	通行人数の増加	2,301人/日	3,000人/日	2,471人/日	見込み	△	平成26年9月	従前値及び評価値と同様の手法により計測する。
指標2	空き店舗数の減少	63件	55件	53件	見込み	○	平成26年9月	評価値と同様の手法により計測する。
指標3	避難場所までの到達時間の短縮	10分	2分	2分	確定	○	確定値のため、フォローアップの必要なし。	
その他1	まちづくり活動への住民参加人数	—	—	2,669人	見込み	—	平成26年4月	平成26年3月末までの各住民参加活動総参加者の延人数を確定値とする。
その他2	中心市街地における避難場所周辺区域の拡大	48.1%	—	78.9%	確定	—	確定値のため、フォローアップの必要なし。	

